ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なることがございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいますようお願いいたします。

商号等：楽天証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

投資にかかる手数料等およびリスク

米国株式の取引にかかるリスク

米国株式は、株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、為替相場の変動等により損失（為替差損）が生じるおそれがあります。上場投資信託（ＥＴＦ）は連動対象となっている指数や指標等の変動等、上場投資証券（ETN）は連動対象となっている指数や指標等の変動等や発行体となる金融機関の信用力悪化等、上場不動産投資信託証券（REIT）は運用不動産の価格や収益力の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

●レバレッジ型、インバース型ＥＴＦ及びＥＴＮのお取引にあたっての留意点
上場有価証券等のうち、レバレッジ型、インバース型のETF及びETN（※）のお取引にあたっては、以下の点にご留意ください。

- レバレッジ型、インバース型のETF及びETNの価額の上昇率・下落率は、2営業日以上の期間の場合、同期間の原指数の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じたものとは通常一致せず、それが長期にわたり継続することにより、期待した投資成果が得られないおそれがあります。
- 上記の理由から、レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、中長期間的な投資の目的に適合しない場合があります。
- レバレッジ型、インバース型のETF及びETNは、投資対象物や投資手法により銘柄固有のリスクが存在する場合があります。詳しくは別途銘柄ごとに作成された資料等でご確認いただく、またはコールセンターにてお尋ねください。

※「上場有価証券等」には、特定の指標（以下、「原指数」といいます。）の日々の上昇率・下落率に連動し1日に一度価額が算出される上場投資信託（以下「ETF」といいます。）及び指数連動証券（以下、「ETN」といいます。）が含まれ、ETF及びETNの中には、原指数の日々の上昇率・下落率に一定の倍率を乗じて算出された数値を対象指数とするものがあります。このうち、倍率が＋（プラス）１を超えるものを「レバレッジ型」といい、－（マイナス）のもの（マイナス１倍以内のものを含みます）を「インバース型」といいます。

【米国株式の信用取引にかかるリスク】
米国株式信用取引の対象となっている株式等の株価（価格）の変動等により損失が生じるおそれがあります。米国株式信用取引は差し入れた委託保証金を上回る金額の取引をおこなうことができるため、大きな損失が発生する可能性があります。その損失額は差し入れた委託保証金の額を上回るおそれがあります。また、米国株式信用取引は外貨建てで行う取引であることから、米国株式信用取引による損益は外貨で発生します。そのため、お客様の指示により外貨を円貨に交換する際の為替相場の状況によって為替差損が生じるおそれがあります。

投資にかかる手数料等およびリスク

〔現物取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

取引手数料
約定代金の0.495%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：22米ドル（税込）

〔米国株式信用取引〕
1回のお取引金額で手数料が決まります。

取引手数料
約定代金の0.33%（税込） ・最低手数料：0米ドル ・上限手数料：16.5米ドル（税込）

※当社が別途指定する銘柄の新規買建または買返済時の取引手数料は無料です。
※売却時（信用取引の場合、新規売建/売返済時）は上記の手数料に加え、別途SEC Fee（米国現地取引所手数料）がかかります。詳しくは当社ウェブページ上でご確認ください。

●米国株式信用取引には、上記の売買手数料の他にも各種費用がかかります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

●米国株式信用取引をおこなうには、委託保証金の差し入れが必要です。最低委託保証金は当社が指定する30万円相当額、新規建て時に最低必要な委託保証金率は50%、委託保証金最低維持率（追証ライン）が30%です。委託保証金の保証金率が30%未満となった場合、不足額を所定の時限までに当社に差し入れていただき、委託保証金へ振替えていただくか、建玉を決済していただく必要があります。

ETF／ETNのリスク(抜粋)

複雑な商品設計のETF/ETNについての注意点
ETF/ETNの中には、ボラテリティ指数先物を対象としたETF/ETNやカバードコール戦略を取り入れたETF/ETNなど、先物取引やオプション取引を組入れている場合があります。そのようなETF/ETNは、先物のロールによる価格変動、対象指数等そのものの急激な値動き等によって想定外の値動きをする場合があります。
また、レバレッジ型ETF/ETNやインバース型ETF/ETNは、原指標の日々の変動率に一定の倍数を乗じて算出されるレバレッジ型指標に連動するよう運用されます。そのため、値動きや想定されるリターンは、通常のETF/ETNとは異なる特性を有しています。
複雑な商品設計のETF/ETNに投資される際は、商品設計を開示書類等でご確認していただき、十分ご理解していただいた上で投資をしてください。

ETFにおける信用リスク
リンク債型ETFやOTCデリバティブ型ETFなどにおいては、ETFが投資に用いるリンク債の発行体またはETFのOTCデリバティブ取引の相手方の財務状況の悪化などにより基準価額が大きく下落する信用リスクが存在します。これらのETFの投資にあたっては、商品設計を予めご確認する必要があります。

ETN発行体の信用リスク
ETNは、裏付となる資産を保有せず、発行体となる金融機関の信用力をもとに価格が特定の指標に連動することを保証する債券です。 そのため、発行体の倒産や財務状況の悪化、信用格付の引き下げ等の影響により、ETNの価格が下落または無価値となる可能性、 また、償還時に発行体が償還金額を支払わない、または支払うことができない可能性があります。このような結果、損失が生じる可能性があります。

早期償還等のその他のリスク
市場動向の急変時や資産総額が小さくなった場合など、管理会社等が運用の継続が困難であると判断した場合は、運用を終了し、繰り上げ償還をする可能性があります。取引所が定める上場廃止基準に該当した場合などは、上場廃止となる可能性があります。

詳細は、当社HPの「ETF／ETNのリスク」をご覧ください。

目次

・米国株市場概況

・米株取引を“続ける”為の考え方

・ポートフォリオの組み方

・米国高配当株の魅力

・終わりに

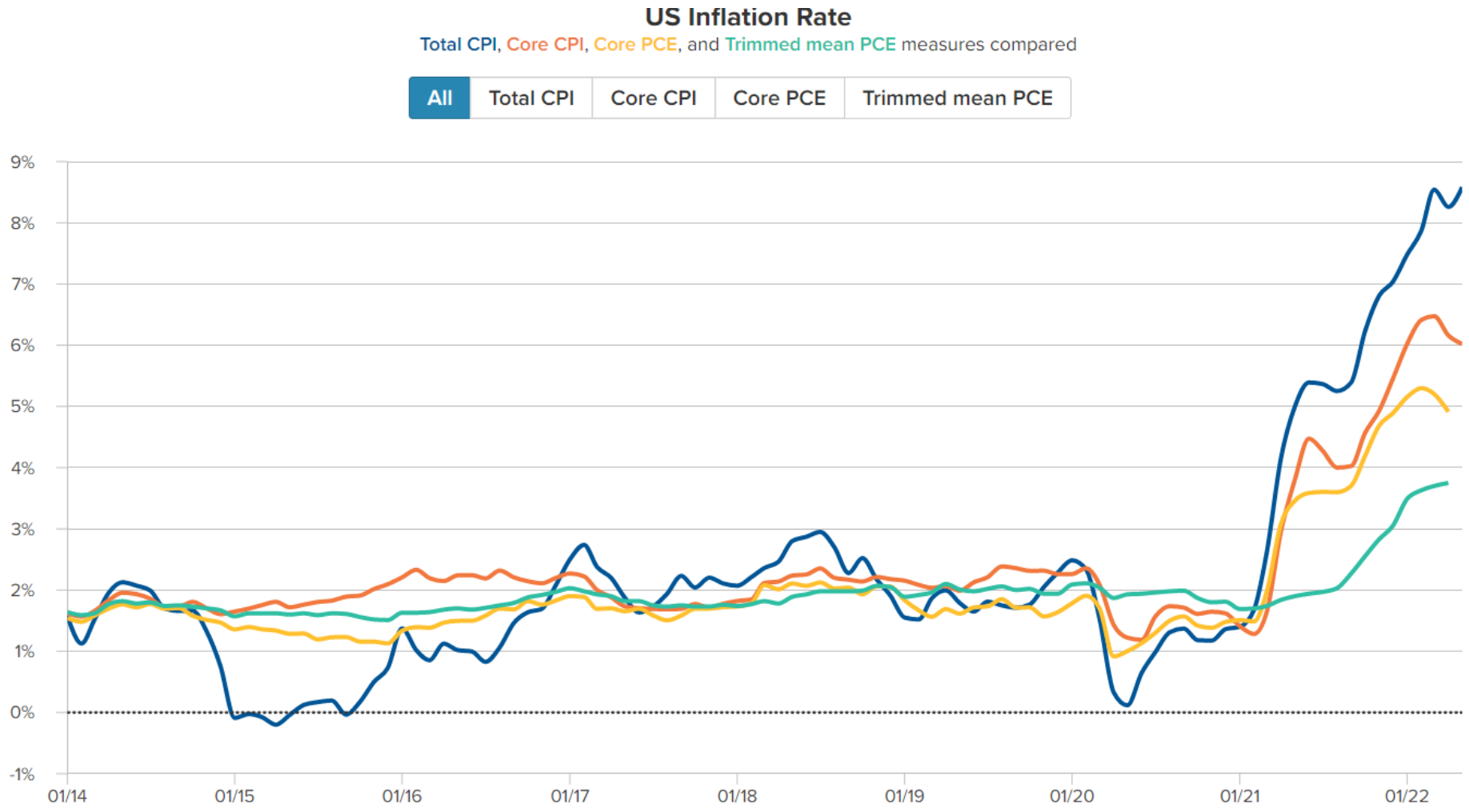
米国株市場概況

- インフレ
- 利上げ
- QT
- リセッション確率
- 今後の展望

米国株市場概況-インフレ

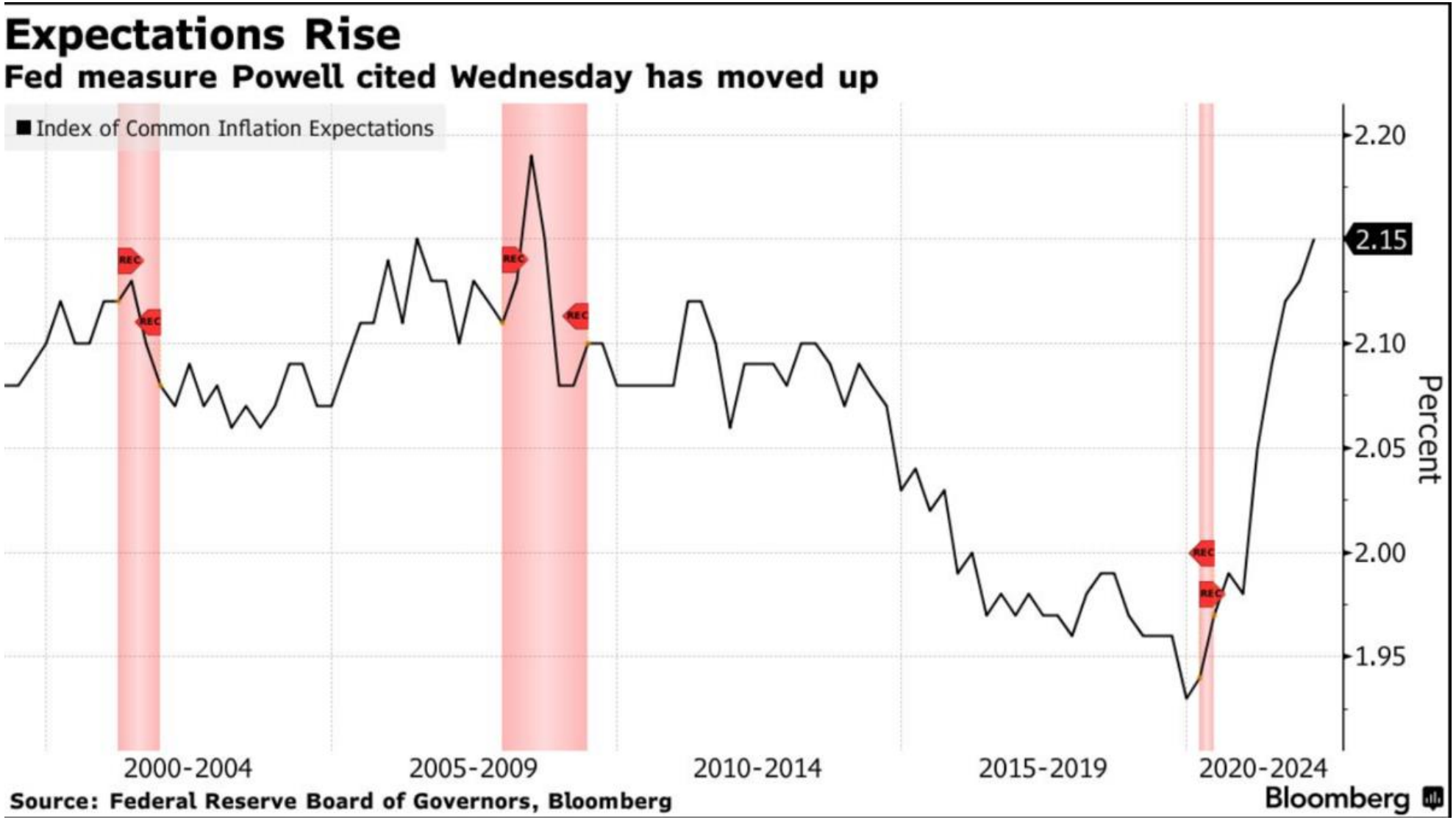
項目	CPI	PCE （PCEPI)	CIE
内容	消費者物価指数 「Consumer Price Index」	個人消費支出指数 「Personal Consumption Expenditures Price Index」	共通インフレ期待指数 「Index of Common Inflation Expectations」
特徴	・PCEデフレータに比べて2週間程度早く、変化の傾向が似ているため、市場の注目度は物価関連指標の中で最も高い ・総合と変動の激しい食品とエネルギーを除いた数字のコアの2種類	・CPIより調査対象が広いため、実際の物価動向を反映している傾向 ・個人消費の物価動向を示す指標 ・総合と変動の激しい食品とエネルギーを除いた数字のコアの2種類	・原油価格の上下など短期のイベントに左右されずらい。 ・4半期に1回の公表なので、タイムリーではない
発表時期	対象月の翌月15日前後	対象月の翌月月末	各四半期最初の月（1月、4月、7月、10月）の第3金曜日（東部時間）の正午に掲載予定。ただし、この日がFOMC直前の金曜日と重なる場合は、代わりにFOMC後の最初の金曜日に更新が掲載予定
算出方法	消費者調査によるデータをベース	企業調査によるデータをベース	インフレ期待に関する21指標から算出
もみあげ視点	最重要指標。コアが直近重要視されている。	遅行指数だけど、現在はCPIと同じ位重要。月前半のCPIと後半のPCEをトリガーでマーケット変化可能性も考慮したい。	期待インフレ率に対する共通インフレ期待指数。原油価格や食品価格などのボラが穏やかになるが、実態経済と乖離する可能性（例えば家計圧迫の緊急度など）も考慮したい。CPIやPCEと併用が吉かと。

米国株市場概況-インフレ



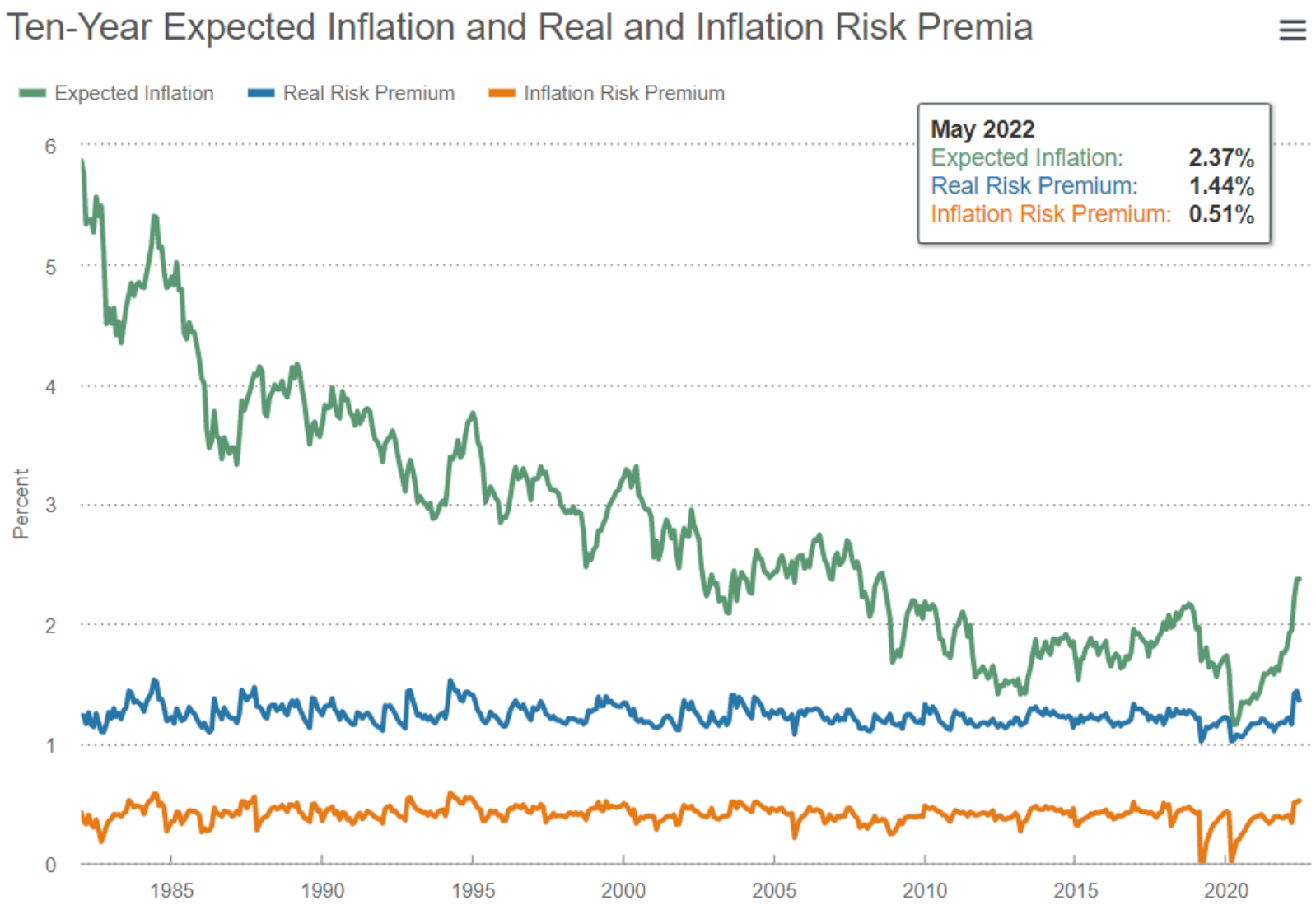
https://www.atlanticcouncil.org/blogs/econographics/deploying-qt-the-fed-readies-its-new-tool-to-fight-inflation/

米国株市場概況-インフレ



https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2022-06-17/RDLJZBT1UM0W01?srnd=cojp-v2

米国株市場概況-インフレ



https://www.clevelandfed.org/our-research/indicators-and-data/inflation-expectations.aspx

左はCleveland連銀が発表している期待インフレ率

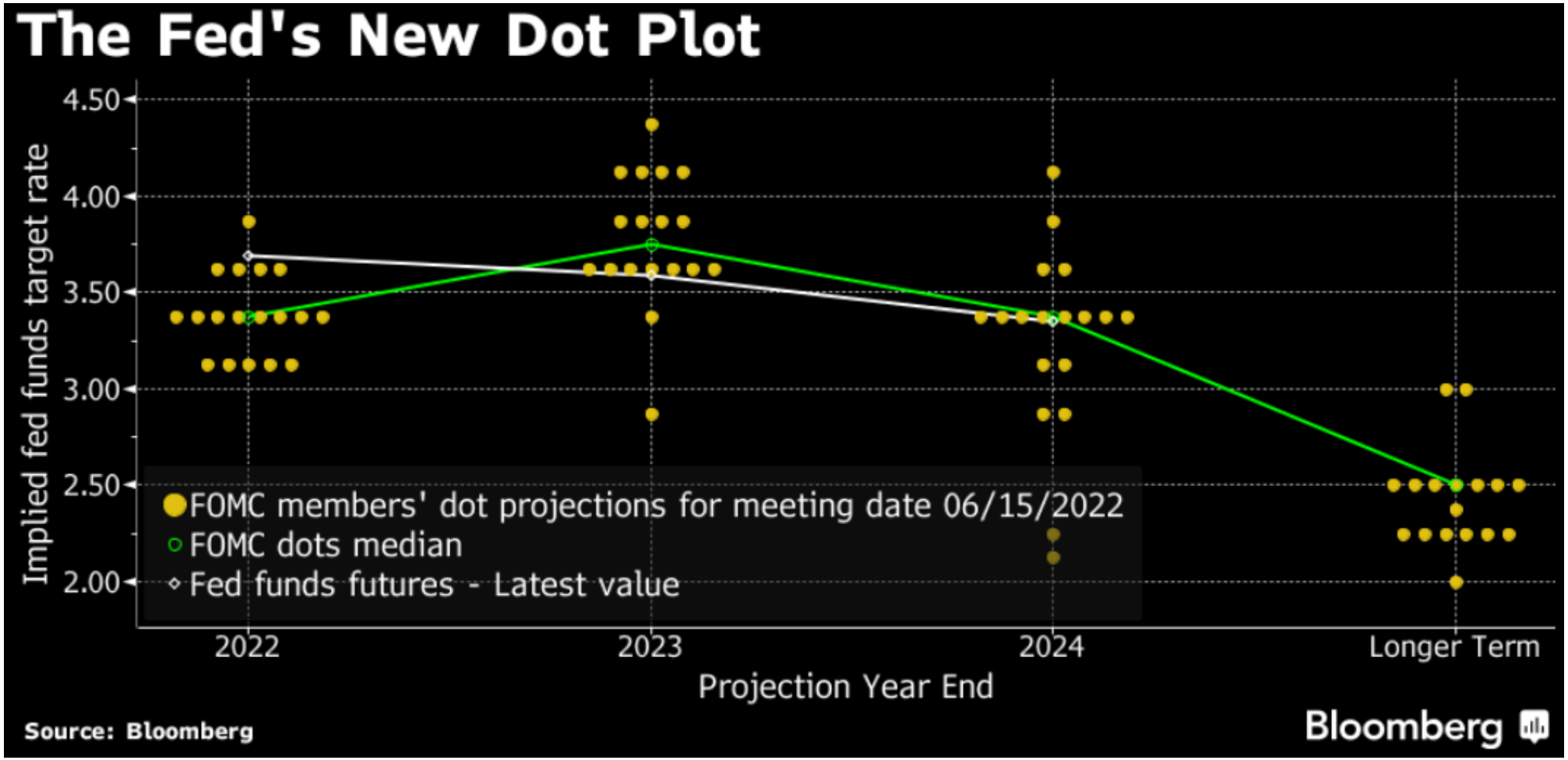
これ以外にFRBが参照してるミシガン大学調査の期待インフレ率

NY連銀が発表している期待インフレ率などが存在しています。

ミシガン大学とNY連銀とも1年間の期待インフレ率は上昇傾向です。

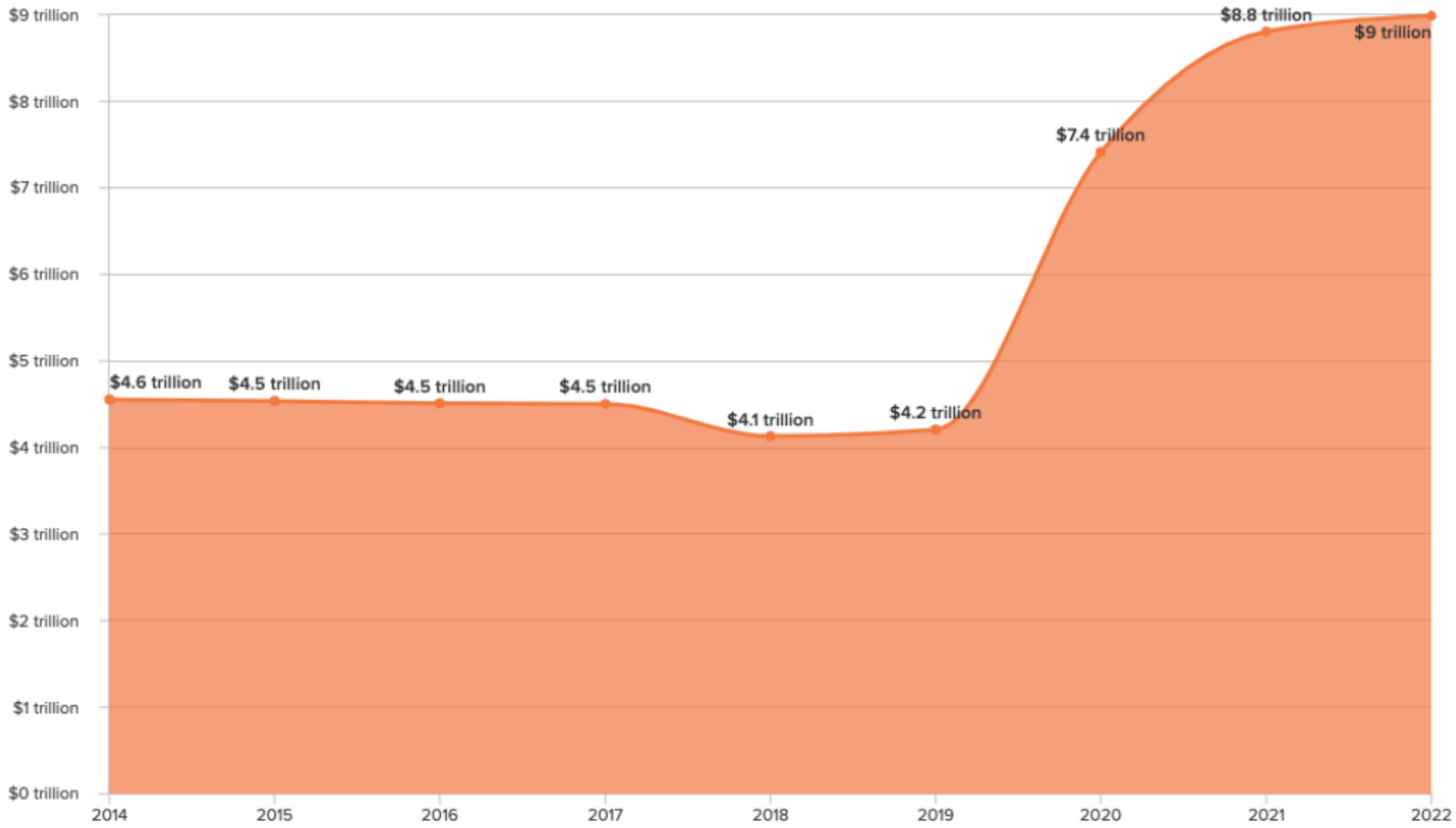
米国株市場概況-利上げ

6月時点で政策金利は1.5-1.75% 7月・9月・11月・12月で追加で1.75%の利上げが中央値では導きだされる。（7月75bps 9月50bps 11月25bps 12月bpsの可能性）



https://www.bloomberg.com/news/articles/2022-06-15/the-fed-s-new-dot-plot-after-its-june-policy-meeting-chart

米国株市場概況-QT



2022年時点で
バランスシートの規模は通常時より2倍に膨れ上がってる。

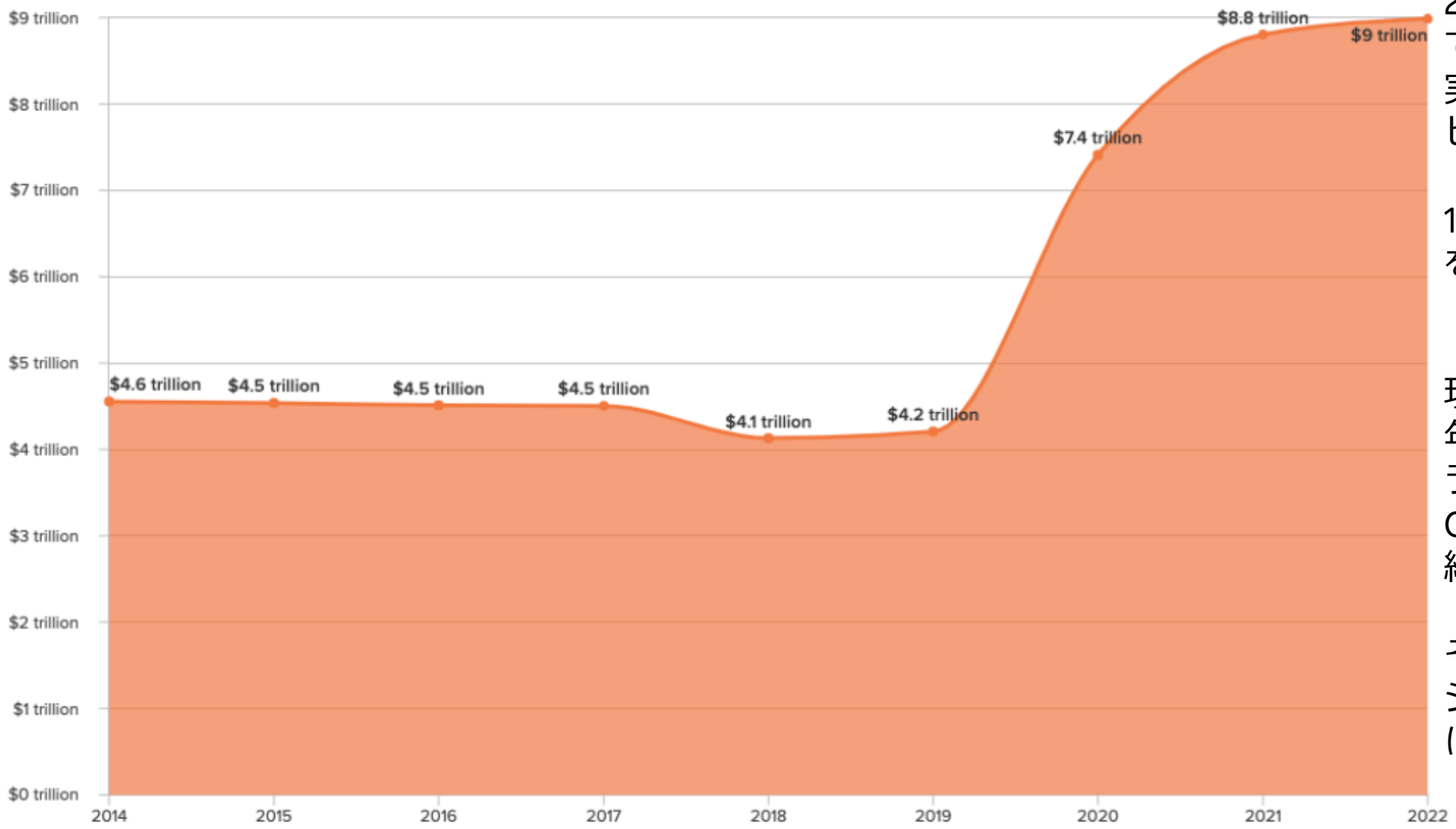
バランスシートの規模を縮小するのがQT

6月1日以降，FRB は1ヵ月当たり最大475億ドルの国債とMBS を償還

9月までにはその規模を950 億ドル

https://www.atlanticcouncil.org/blogs/econographics/deploying-qt-the-fed-readies-its-new-tool-to-fight-inflation/

米国株市場概況-QT



2017年から2019年において最大500億ドル/月で実施したQTの2倍のスピード

1年間でバランスシートを1年で 約1兆ドル（11%）削減予定

現在のQTペースを2024年末まで維持すれば、バランスシートは現在のGDP比37%から約20%に縮小

その影響は25～125ベーシスポイント（1.25%）に及ぶと推定

https://www.atlanticcouncil.org/blogs/econographics/deploying-qt-the-fed-readies-its-new-tool-to-fight-inflation/

米国株市場概況-リセッション確率

JPM）
金融誌インスティチューショナル・インベスターの昨年の調査で株式ストラテジストのランキング１位に選ばれたコラノビッチ氏は米株式相場について、年内に徐々に回復する準備ができており、Ｓ＆Ｐ500種株価指数は年末時点で変わらずとなる公算が大きいと見通し（6月14日）→85%のリセッション確率も報道されている。

バンクオブアメリカ）
米金融大手バンク・オブ・アメリカ（ＢｏｆＡ）証券は１７日、インフレが高止まりする中、２０２３年に米経済がリセッション（景気後退）に陥る確率は約４０％（6月17日）
https://jp.reuters.com/article/bofaml-research-recession-idJPKBN2NY1LS

野村證券）
・今年第4四半期からマイナス成長へ
・それ以降‘23年から’24年にかけ“6四半期連続”のマイナス成長予想（6月20日）

WSJ）
エコノミストらは米経済が今後12カ月の間にリセッション（景気後退）入りする確率を44%へと大幅に引き上げた。これは通常、リセッション入り直前もしくはリセッション中でなけれな見られない水準だ。4月の調査では28%、1月の調査では18%だった（6月20日）
https://jp.wsj.com/articles/recession-probability-soars-as-inflation-worsens-11655679684

米国株市場概況-今後の展望

https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2022-06-19/RDQCBPT0AFB401

米国株市場概況-今後の展望

- インフレ-ピークアウトが前提条件
- 利上げ-2023年中に利下げ可能性も
- QT-2023年中旬までに状況見えるかも
- リセッション確率-景気後退度次第
- 今後の展望

8月ジャクソンホールをターニングポイント

悪くても2024年には回復基調か

https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2022-06-19/RDQCBPT0AFB401

“続ける”為の考え方-暴落を知ろう

- “続ける”為の考え方-暴落を知ろう
- “続ける”為の考え方-自分自身を知ろう

“続ける”為の考え方-暴落を知ろう

何故沢山の投資家が長期投資を続けることができなくなるのか？

米国株は平均で7%上昇し続けた。右肩上がり。米国株に投資すれば誰でもお金持ちになる。
そんな聞こえのいいフレーズが上昇相場では当たり前ににぎわせます。

そして突然の下落相場

基本的に一番怖くなるのが、出口が見えない得体のしれない下落が起きた時に、その恐怖に耐えきれずに自分の資産がぐんぐん減っていくのに耐えきれずに辞めてしまうというのがほとんどだと思います。

では何が必要か？まずは米国株にも過去暴落が何度もあったという事。そして暴落がどのような物だったのかを知っておくことだと思います。株式投資はリスク資産に投資している。だから暴落が発生する可能性はいつでも存在すると認識しておくことだと思います。

“続ける”為の考え方-暴落の歴史

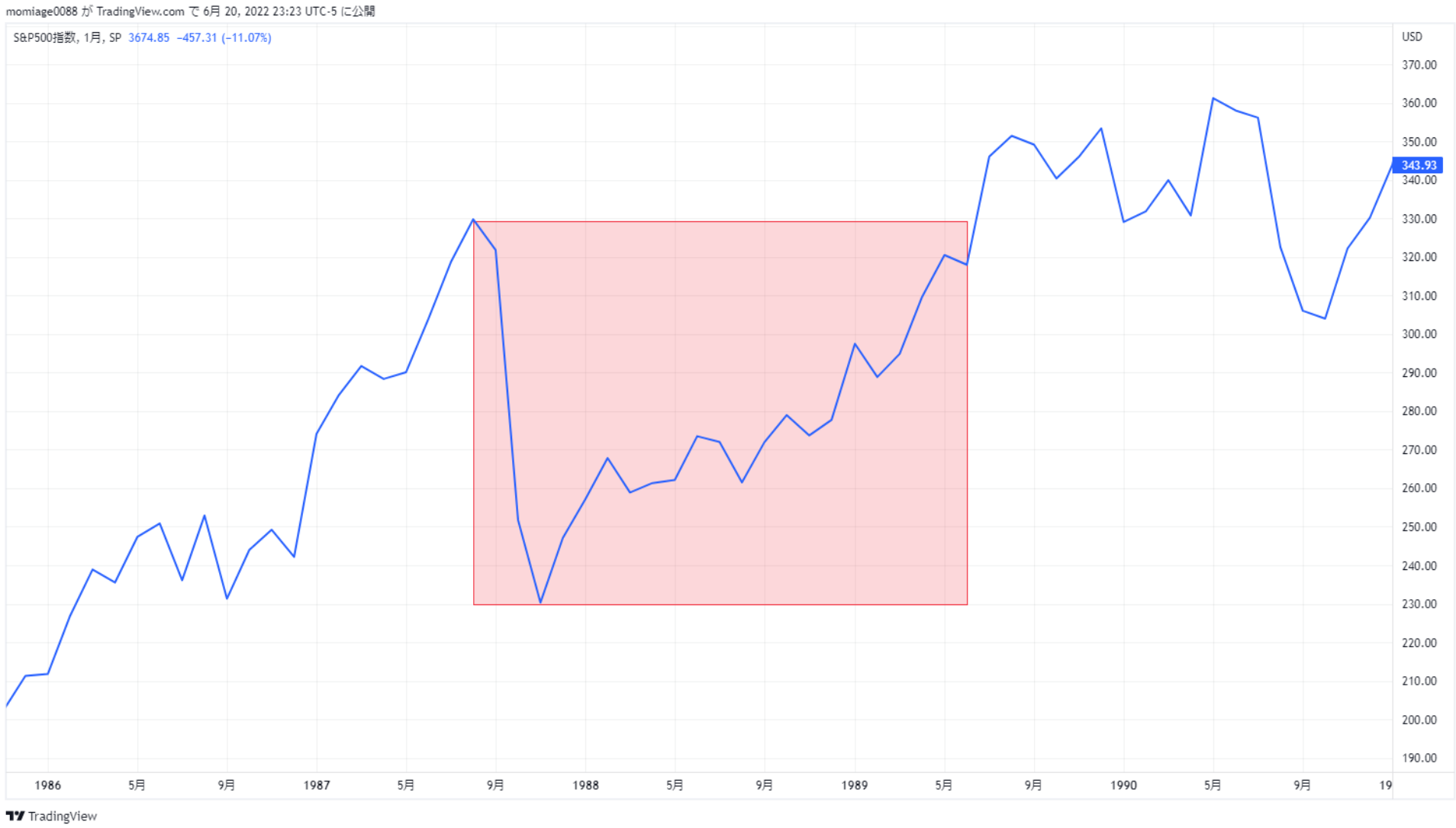
https://www.bloomberg.com/news/articles/2022-06-14/wall-street-s-latest-bear-market-may-be-here-to-stay-for-a-while

“続ける”為の考え方-暴落の歴史

暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

https://dot.asahi.com/aera/2022051200114.html?page=1 https://www.renosy.com/magazine/entries/4716

“続ける”為の考え方-ブラックマンデー



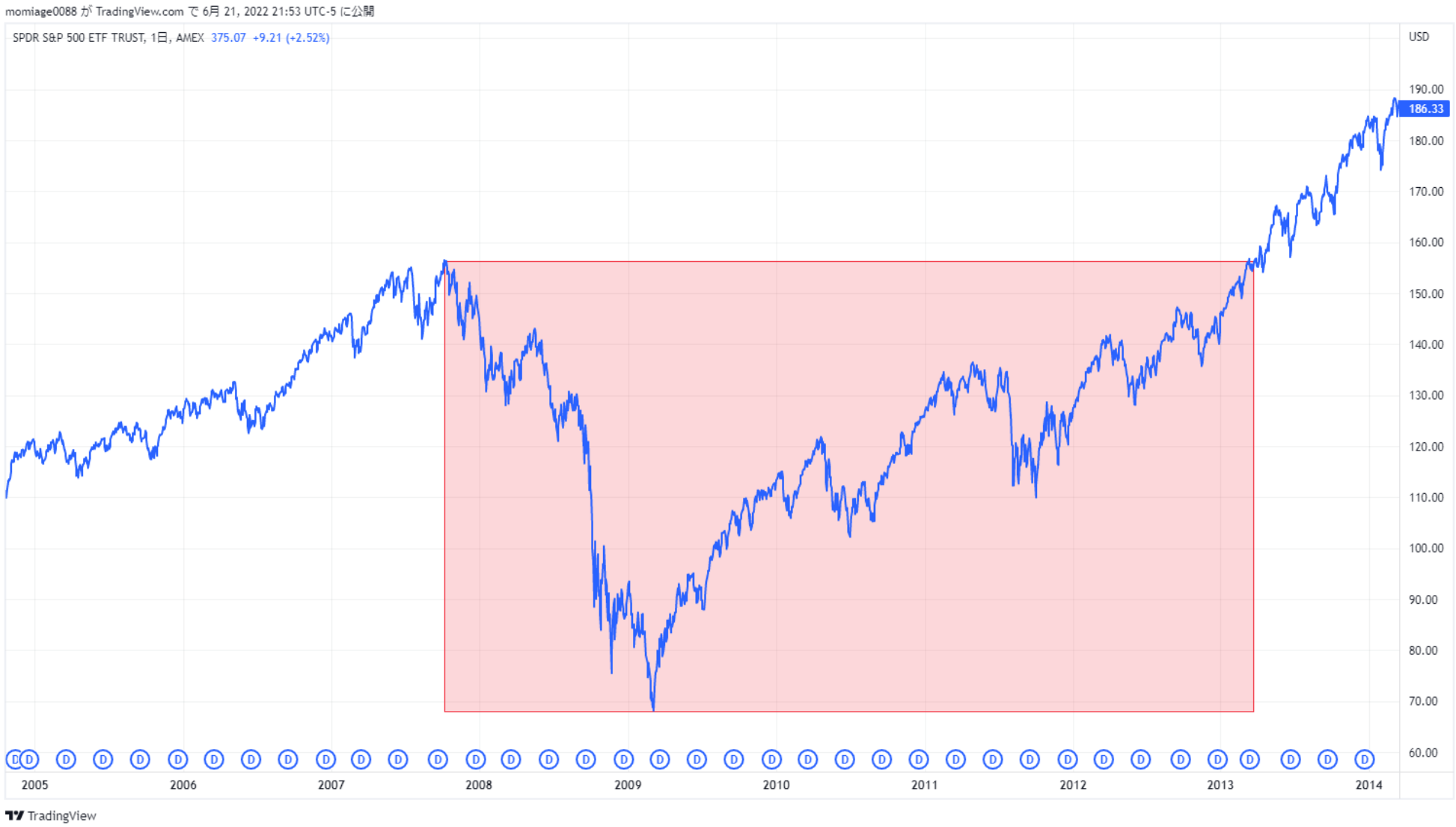
暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

“続ける”為の考え方-ITバブル崩壊

momiage0088 が TradingView.com で 6月 21, 2022 21:56 UTC-5 に公開

暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

“続ける”為の考え方-リーマンショック



暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

“続ける”為の考え方-コロナショック

暴落名	暴落率	暴落期間	暴落時期	回復期間
ブラックマンデー	-30%	4か月	1987年8月-1987年11月	8か月
ITバブル崩壊	-46%	2年1か月	2000年8月-2002年9月	6年9か月
リーマンショック	-52%	1年4か月	2007年10月-2009年2月	5年5か月
コロナショック	-20%	3か月	2019年12月-2020年3月	7か月

“続ける”為の考え方-自分自身を知ろう

意外と自分自身は知らない

長期投資を考える場合は、マーケットを知る事と同じ位自分自身を知ることが大切

例えば今の下落局面において、ワクワクするか、それとも下落で落ち着かないか。

メンタルをチェックしてみてください。

ワクワクする方は下落中に積極的に追加投資をして、もし上昇局面で大きなリターンを得る可能性はあります。

落ち着かない方は追加投資ができずに上昇局面でほとんどリターンを得ることができない可能性があります。

ではどちらが長期投資に向いてるのか？

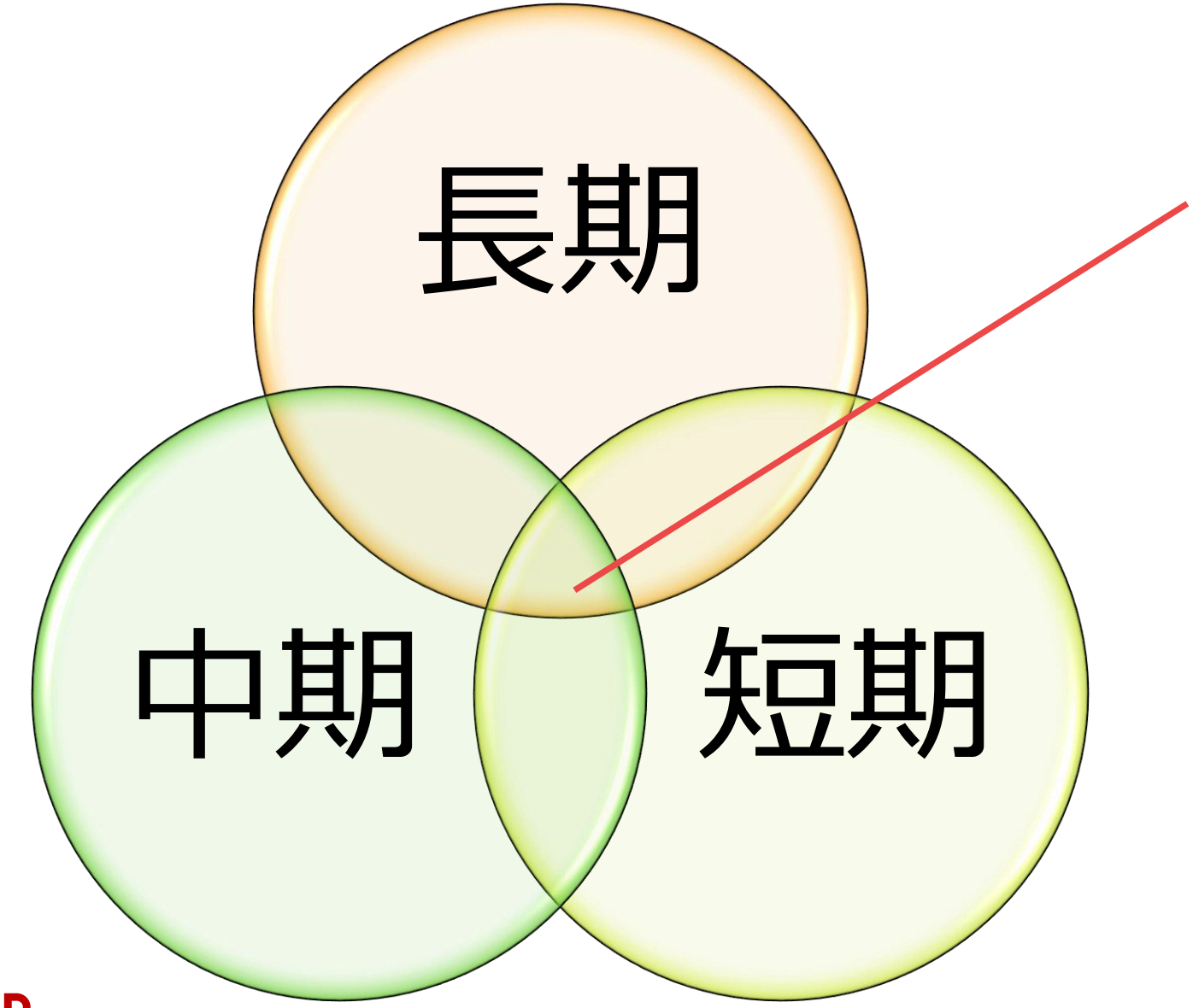
“続ける”為の考え方-自分自身を知ろう

ワクワクする方はもしかしたらギャンブル好きなのかもしれません。上昇相場になったと考えた時にリスクを取りすぎて、更に大きな下落が来た場合は一気に資産を減らすリスクがあります。

落ち着かない方は凄く慎重な性格で、上昇のタイミングを逃したかもしれないと思ったら、もう一度大きな下落が来ても資金余力があって、結果的に着実に資産を増やせるかもしれません。

要は性格の向き不向きは長期投資においては、短期的には分からない。性格がパフォーマンスを決めるとは限らないんです。ただ自分の性格の特徴を掴んでおくのは非常に大切です。

“続ける”為の考え方-自分自身を知ろう



長期も中期も短期も本来の目的は同じです。

「投資による資産形成」

手法が違ったり、短期的な上下の色々な情報で混乱する時がありますが、目指す目的は見失わない。

ポートフォリオの組み方

①コア＆サテライト戦略

②アセットアロケーション

③年代と資産総額のバランス

→上記を軸にして自分なりのルール設定

ポートフォリオの組み方

①コア＆サテライト戦略は投資方針の主軸を決めて、もしご自身で少しデコレーションを加えたい場合はサテライトとして投資をしていく方針です。

コアで安定感をだして、サテライトで自分好みの少しリスクを取った銘柄を選択していく方式と

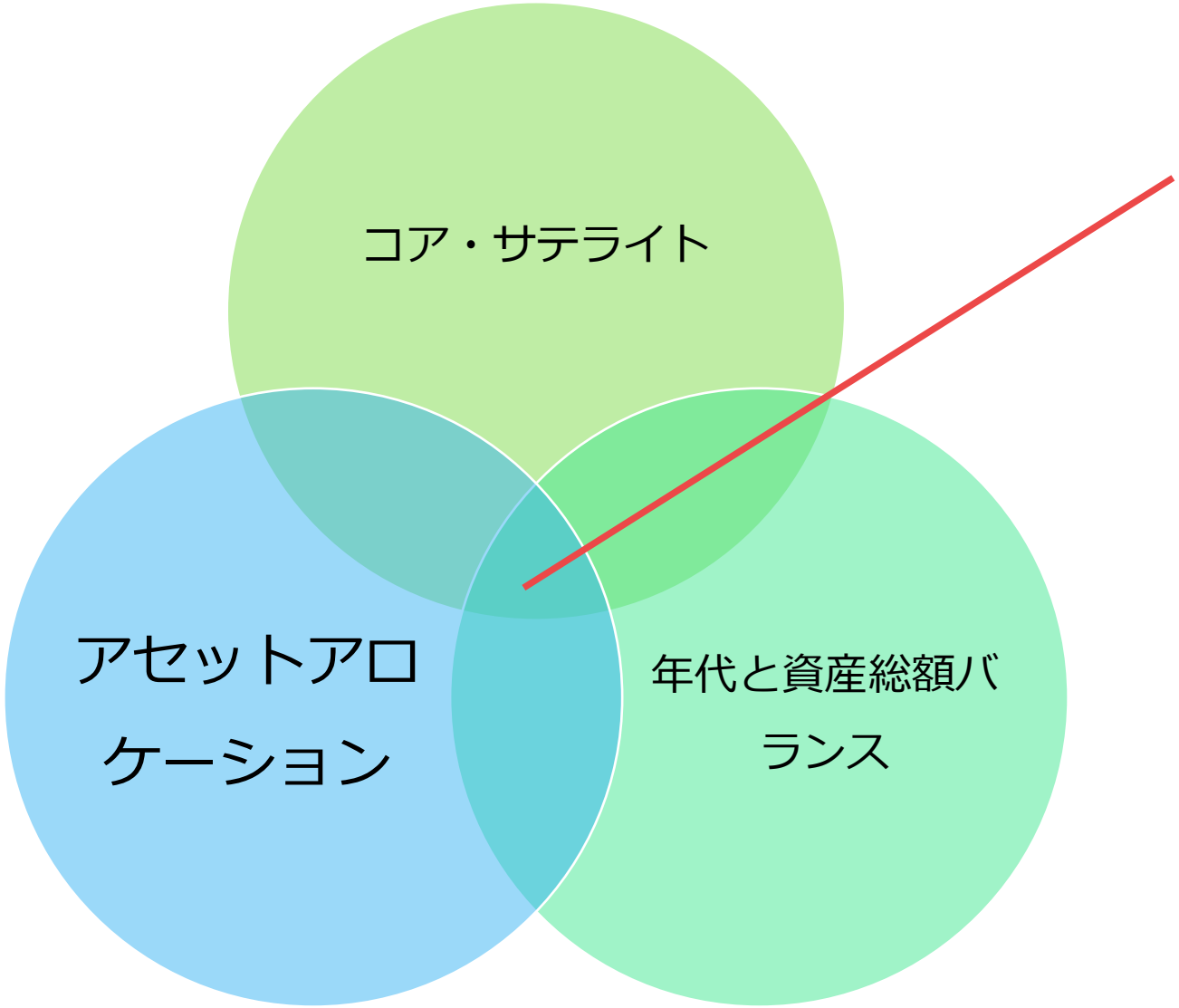
例）インデックスETFコア 例）配当コア 例）個別株コア

②アセットアロケーションは現金と余剰資金の比率を管理していく事です。

年齢＝現金比率　20歳＝総資産の20%　30歳＝総資産の30%　40歳＝総資産の40%

③上記の現金比率を年代と資産総額によってバランスをとる事です。例えば40歳で総資産が500万円、お子さんが大学受験を控えてる時に、総資産の40%である200万だけ余剰資金として残して問題ないか？などです。人生の大切なイベントも意識して調整。

ポートフォリオの組み方-ルール設定



3つのバランスをとるために最も必要なのは

「ルール設定」

例えばアセットアロケーションを年齢や資産総額バランスを考えずに、無理をしても成功しない。

コア・サテライトも今の下落相場において余りにもサテライトがリスクが高い戦略にすると、大きな痛手を受ける。

米国高配当株の魅力

①連続増配銘柄が非常に多い。（日本株は20年以上が16銘柄、1位は花王の32年）
50年以上の配当王は34社、25年以上の配当貴族は約60社
→その中で2.5%以上の高配当銘柄が50銘柄ランクインしている。

②配当が4半期に1回（3か月に1回）の銘柄がほとんどで、
配当を生活資金として活用しやすい

③高配当ETFも多数存在してる為に、ETFを活用した運用もしやすい

米国高配当株の魅力-連続増配

順位	Ticker	銘柄名称	増配年数	配当利回り	株価
1	AWR	アメリカン・ステイツ・ウォーター	67	2.01	72.61
2	DOV	ドーバー	66	1.71	117.29
3	GPC	ジェニュイン・パーツ	65	2.81	127.22
4	PG	プロクター・アンド・ギャンブル	65	2.76	132.36
5	PH	パーカー・ハネフィン	65	2.25	236.37
6	NWN	ノースウェスト・ナチュラル・ガス	65	3.73	51.69
7	EMR	エマソン・エレクトリック	64	2.62	78.65
8	MMM	スリーエム	63	4.59	129.84
9	CINF	シンシナティ・ファイナンシャル	61	2.42	113.97
10	LANC	ランカスター・コロニー	59	2.58	124.14
11	JNJ	ジョンソン&ジョンソン	59	2.67	169.46
12	KO	コカ・コーラ	59	2.96	59.43
13	LOW	ロウズ	59	2.44	172.47
14	NDSN	ノードソン	58	1.04	195.36
15	ITW	イリノイ・ツール・ワールド	58	2.74	178.25
16	CL	コルゲート・パルモリーブ	58	2.54	74.04
17	HRL	ホーメル・フーズ	55	2.33	44.69
18	ABM	エービーエム・インダスストリーズ	54	2	39.01
19	TGT	ターゲット	54	3.1	139.3
20	SWK	スタンレー・ブラック・アンド・デッカー	54	3.06	103.25

https://nikkeiyosoku.com/stock_us/ranking_inc/

米国高配当株の魅力-高配当ETF

名称	VYM	HDV	SPYD
株価($)	99.2	97.13	38.63
年初来	-11.93%	-4.01%	-8.87%
5年間	26.92%	16.84%	9.43%
設定年	2006年11月	2011年3月	2015年10月
配当率	2.76%	3.18%	3.56%
コスト	0.06%	0.08%	0.07%
運用資金	45.44B	9.72B	6.56B
組入れ銘柄数	446	77	81

米国高配当株の魅力-高配当ETF

銘柄	組入れ銘柄	組み換え回数	組入れセクター	コメント
VYM	446銘柄	1回	金融22% 生活必需品14% ヘルスケア14% ハイテク10% 資本財9% その他31%	安定感は最も高い 唯一リーマンショックを乗り越えたETF
SPYD	81銘柄(均等)	2回	公益19% 金融16% エネルギー14% 不動産14% 生活必需品10% その他27%	単価安く投資しやすい 暴落には弱い
HDV	77銘柄 (上位10銘柄で54%)	4回	ヘルスケア23% エネルギー18% 生活必需品17% 金融11% ハイテク9% その他22%	上位10銘柄のパフォーマンス影響高い バリュー銘柄はトレンドフォロー型

米国高配当株の魅力-高配当ETF

デメリット

①S&P500には配当込みでも資産増加に関しては劣後する可能性が高い。

-インフレ局面で金利が重しになり高配当が有利になっているが、下落局面や上昇局面でもS&P500などにはパフォーマンスは負ける

②暴落局面でディフェンシブ性は弱い→減配はETFでも起こる

③配当金に米国分10%が課税されるので外国税控除申請必要。

但し他の所得がないと申請自体ができない。

Rakuten 楽天証券